

／ よくわかる ／

基礎シリーズ

債券の基礎

Chapter 1

債券のしくみ
をおさえよう

Chapter 2

債券投資のリスク
を知っておこう



大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management



債券とは

- 債券とは、発行体（国や地方公共団体、企業など）が資金調達のために発行する有価証券で、お金を借り入れる際の証書のようなものです。債券は一般に、あらかじめ発行条件（利率や償還日など）が決められています。



債券が発行される理由

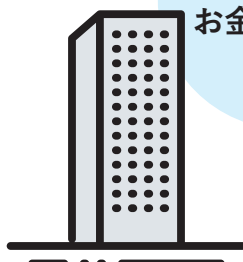
- 国や地方公共団体、企業が活動するためには多くの資金が必要となります。そのため、活動資金を出してくれる人や会社などを探さなければなりません。

今度の事業で
お金が必要だ



国・地方公共団体

でも
お金がない…



企業

など

活動資金を
集めることを、
資金調達というよ



国・地方公共団体、企業などの主な資金調達方法

- ✓ 金融機関から借り入れる
- ✓ 債券を発行し、一般の人や会社などから借り入れる
- ✓ 株式を発行し、出資金を募る（株式会社の場合）



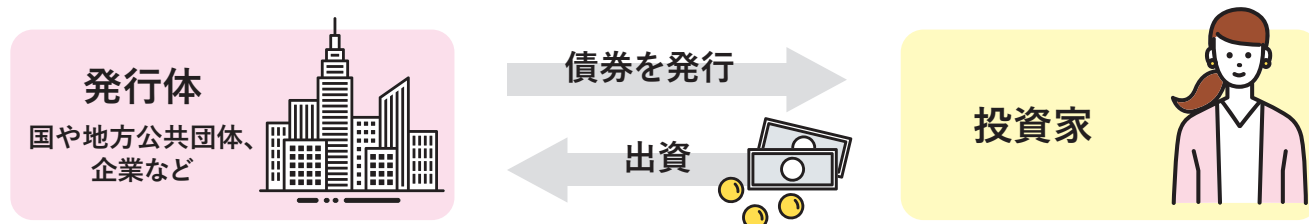
債券市場とは

■ 債券市場は、発行市場と流通市場に分けることができます。

発行市場

新しく発行された債券（新発債）の市場

発行市場とは、企業などが資金調達の目的で債券を新規に発行し、それを発行体から直接あるいは証券会社などを通じて投資家が取得する市場のことです。



流通市場

すでに発行された債券（既発債）の市場

流通市場とは、すでに発行された債券が売買される市場のことです。債券の売買は、主に店頭取引といわれる相対（あいたい）取引で証券会社などを通じて行われます。





一般的な債券のしくみ

■債券を発行する際には、いつまでに元本を返すのか?という意味の償還日や、利率、利払い日などが決められます。

発行体

満期まで利子の支払いが発生、
償還日に元本を返済する



お金の借り主となる発行体は、利子の支払い義務が発生し、利払い日に債券を保有している投資家に対して、利子を支払う仕組みになっています。

投資家

証券会社などで債券を売買可能
保有期間中は利子がもらえる



投資家は、それぞれの債券の条件を鑑みて、自身の投資資金の性質に合わせて、どの銘柄がよいかを検討します。そして、証券会社などを通じて債券を売買し、保有期間中は利子をもらうことができます。

債券の発行条件

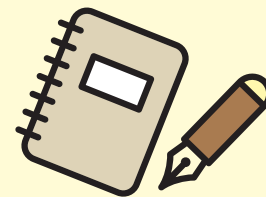
■債券を発行する際には、発行条件が決められます。

主な発行条件

額面金額	債券購入の単位となる額で償還時に戻ってくる金額
発行価格	債券を新規に発行する際の価格
償還日	満期日のこと。額面金額が投資家に戻ってくる日
利率(表面利率)	額面金額に対する1年間の利子の割合。「クーポンレート」とも呼ばれる
利払い日	利子の支払い日。年2回のものが多い



投資家が額面100万円分の 債券を購入した場合



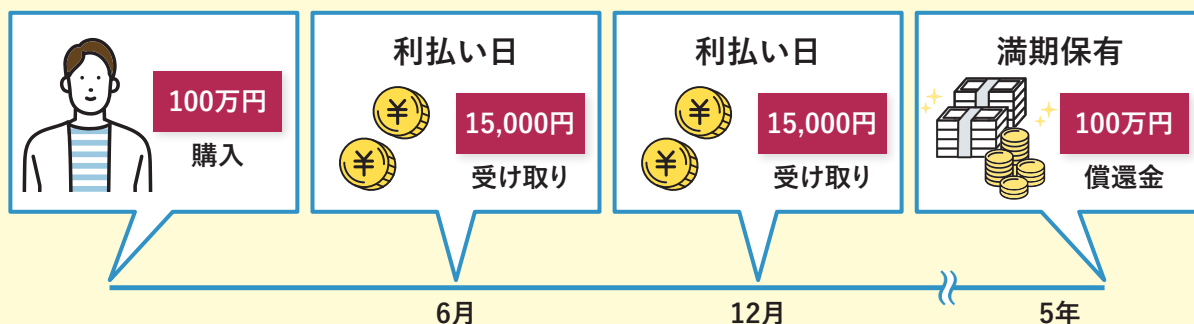
発行条件
(例)：

- ✓ 額面100万円、満期5年
- ✓ 利率3%
- ✓ 利払い日 6月
12月

満期まで年2回の利子
(合計年3万円、税引前)
が受け取れる

利率は年率3%、利払い日の6月と12月にそれぞれ15,000円ずつ受け取れます。年2回で合計3万円(100万円×3%=3万円)の利子を受け取ることができます。

満期までは5年間ありますので、途中で売却すればそのときの相場によって売却額は上下しますが、満期まで保有すれば額面である100万円が償還金として戻ってきます。



※税金等諸費用は考慮していません。

※発行体に債務不履行（デフォルト）がない場合。

ご参考：「利率」と「利回り」の違い

利 率…額面金額に対する1年間の利子の割合

利回り…投資元本に対する収益の割合

「利子」と「発行価格(購入価格)と償還価格(売却価格)の差損益」を合わせた収益率を表します。



債券の分類①

■「利子の支払い方法」によって債券を分類すると、「利付債」と「割引債」に分けることができます。



利子(クーポン)の支払い方法

「利付債」とは、あらかじめ決められた利払い日に利子の支払いがある債券のことで、「固定利付債」と「変動利付債」に分けることができます。

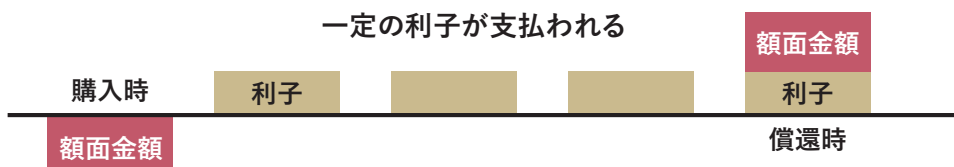
「固定利付債」とは、毎回一定の利子が支払われる債券のことで、

一方、「変動利付債」とは、市場金利に連動して利子が毎回変動する債券のことで、

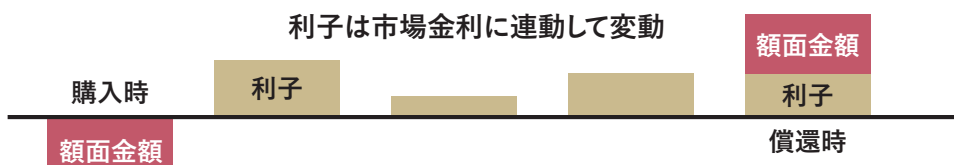
利付債

あらかじめ決められた利払い日に利子の支払いがある債券

固定利付債



変動利付債



「割引債」は、購入金額を額面金額よりも低くして発行し、その差額が利子相当分となる債券です。利子(クーポン)がないためにゼロクーポン債ともいいます。債券は「固定利付債」が一般的です。

割引債

購入価格を額面金額よりも低くして発行し、その差額が利子相当分となる債券



利子(クーポン)がない分
額面金額より安く購入できる



債券の分類②

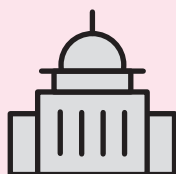
- 「発行体」によって債券を分類すると、公共機関が発行する債券と民間企業が発行する債券に分けることができます。「償還までの期間」に応じた分類や、新規に発行される債券か否かによる分類もあります。

発行体

公共機関が発行

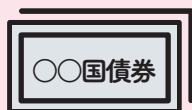
公共債

国債、地方債、
国際機関債 など



PICK UP!

国債

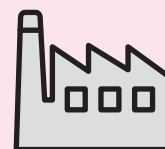


- ・利回りは社債より低い傾向がある
- ・国が発行する債券のため、相対的に安全性が高い

民間企業が発行

民間債

社債、金融債 など



PICK UP!

社債



- ・事業会社などが発行する債券で、利回りは国債と比べて高い傾向がある（満期までの期間が同じ場合）
- ・信用リスクは国債より高い傾向がある

償還までの期間

短期債

1年以下

中期債

1年～5年

長期債

5年～10年

超長期債

10年超

償還期限

新発債と既発債

新発債

新規に発行
あらかじめ決められた発行価格で購入

既発債

すでに発行されて市場で流通
そのときの時価で購入



債券投資の魅力

- 債券は条件などが明確に決められており、発行体に債務不履行（デフォルト）がなければ、償還日には元本が戻ってくるため、資産形成の土台にしやすい資産のひとつです。

定期的に受け取れる利子

利付債の場合、 保有期間中に利子を定期的に受け取れる

※一般に、同じ期間の預貯金に比べて利率は高い傾向があります。
※債券には金利変動リスク等があります。



満期時に受け取れる額面金額

満期時には 元本または約束した金額を受け取れる

※ただし、債務不履行（デフォルト）がない場合です。
※外貨建債券には為替変動リスク等があります。



途中で売却可能

原則として いつでも売買できる

保有した日数に応じた利子（経過利子）がもらえます

※ただし、そのときの市場価格で売買されるため、
売却価格が購入価格を上回る場合も下回る場合もあります。
※債券の種類によっては、すぐに売却できないこともあります。

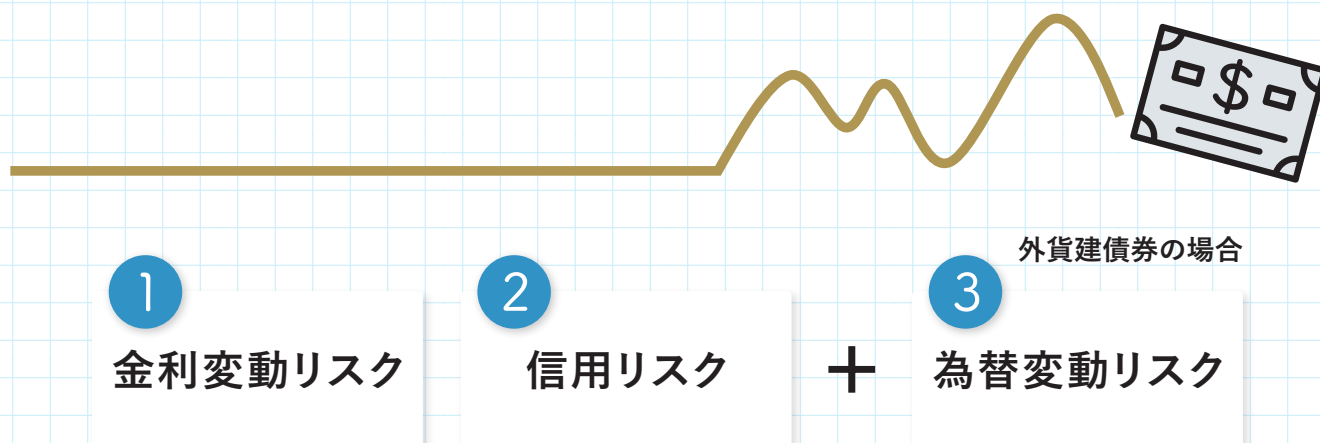


※債券投資の特徴などの一部をご紹介します目的で作成したページであり、投資をお勧めするものではありません。投資の際にはご自身でご判断ください。



債券投資のリスク

■債券投資のリスク要因は主に3つあります。

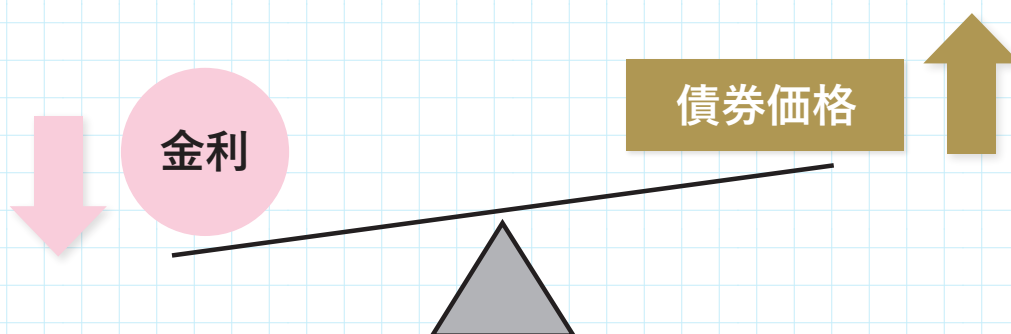


※上記リスクのほかにも、発行額や売買が少ない銘柄の場合に、希望した価格で売却できなくなる「流動性リスク」などがあります。



①金利変動リスク 金利変動と債券価格の変化の関係性

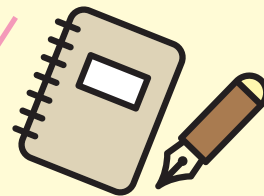
■債券の価格は原則、市場金利の動向により日々変動しています。債券には、金利が上昇すると価格は下がり、金利が低下すると価格は上がるという特徴があります。つまり債券価格と金利は、シーソーのような関係性といえます。債券価格の変動には市場金利動向が大きく影響します。





① 金利変動リスク 金利変動と債券価格の変化の関係性

年利率5%の債券Aが
100円で取引されていた場合



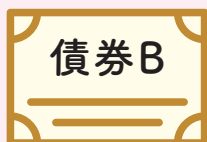
たとえば…

1年で利率が5%の債券Aが100円で
取引されていたとすると



金利が上昇した場合

利率が年6%の債券Bが
100円で新規発行される



年5%の利子しかもらえない
債券Aの人気は下がることに
⇒価格が下がる



金利が低下した場合

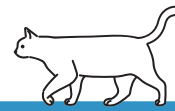
利率が年4%の債券Cが
100円で新規発行される



年5%の利子がもらえる
債券Aの人気は上がることに
⇒価格が上がる



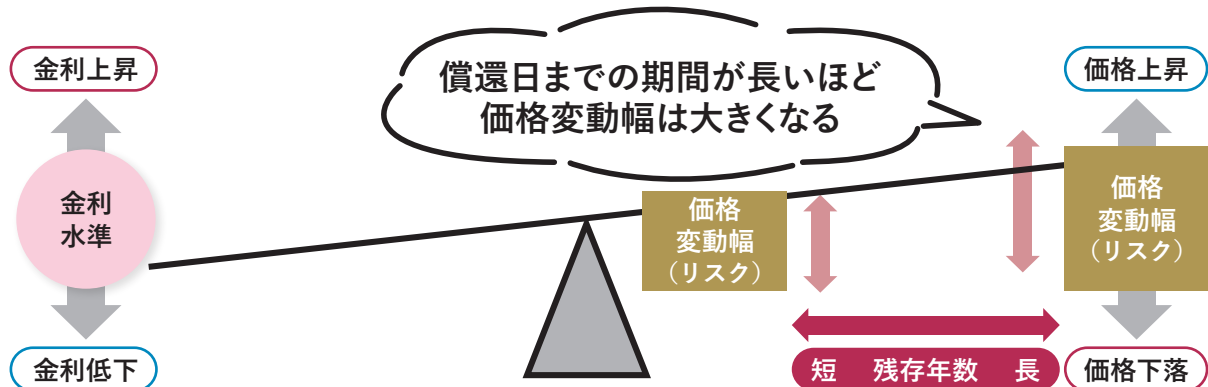
このように、一般に金利変動と債券価格の変化は逆の動きをします。



■金利変動と債券価格の変化の関係をみていきましょう。

金利変動と債券価格の変化の関係

金利が上昇(低下)すると、債券価格は下落(上昇)しますが、その程度は債券の残存年数(償還日までの期間)によって異なります。



残存年数が同じ債券でも、利率(クーポンレート)が異なれば価格変動は異なります。ここで役立つのが「デュレーション」です。残存年数の長い債券は利回りが高い傾向にありますが、デュレーションも大きくなります。

「デュレーション」の2つの意味合い

①債券投資における元本の平均回収期間

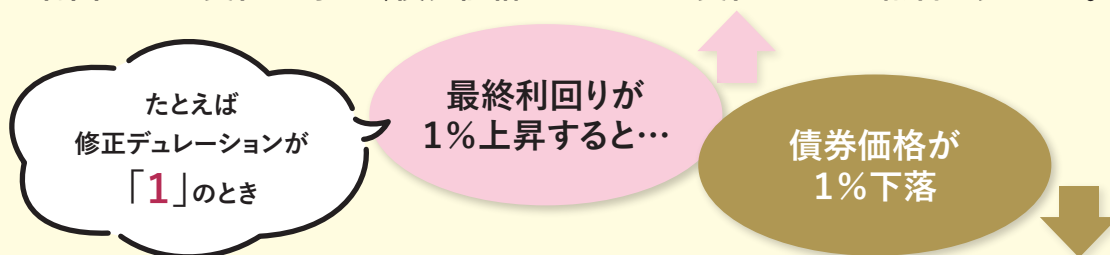
将来受け取ることのできる利子と償還金の合計額を平均でいつまでに回収できるかを示しています。

②金利の変動に対する債券価格の反応の大きさ



修正デュレーション

②をより直接的に表したものが「修正デュレーション」という考え方です。利回り1%の変化に対して、債券価格がどのくらい変化するか割合を表します。



つまり修正デュレーションが大きいほど、
金利変動に対する価格変動幅が大きいことを意味しています。

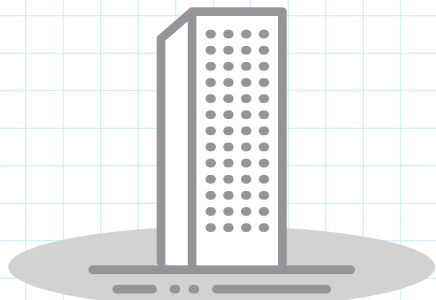


②信用リスク 元本や利子の支払いの遅延または不能リスク

■債券投資における信用リスクとは、元本や利子の支払いの遅延または支払い不能リスクのことをいいます。

最悪のケース

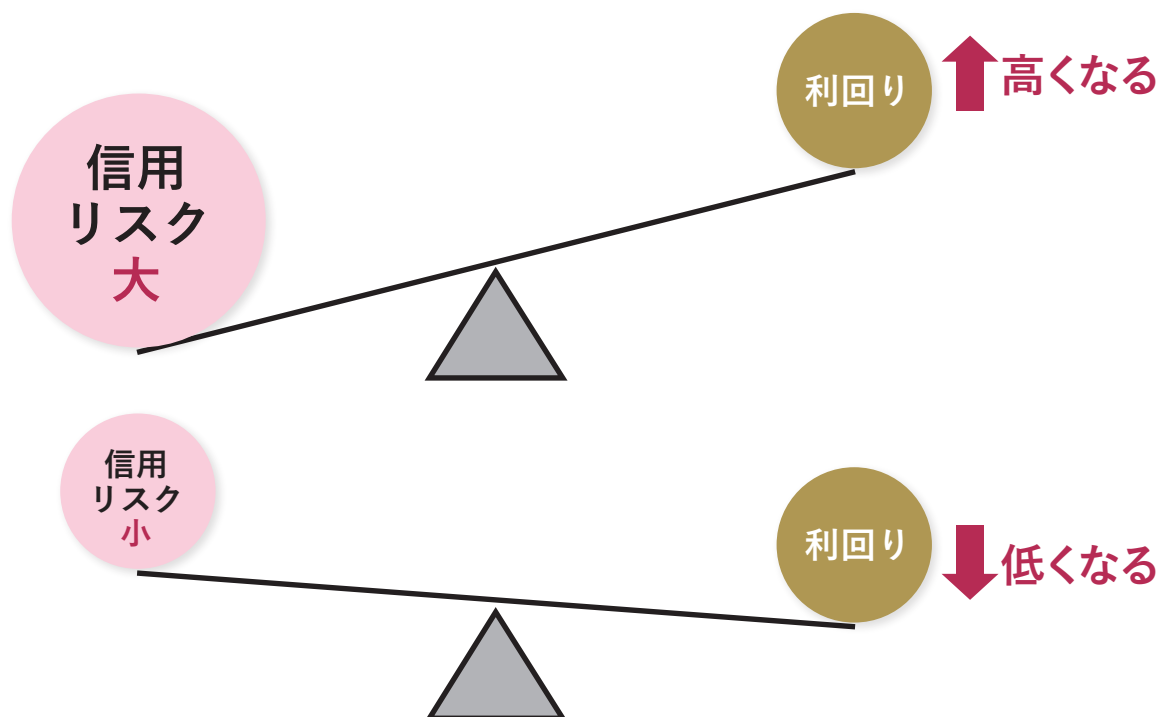
元本や利子が払えない…



=債務不履行(デフォルト)

債券の価格は発行体の信用状況によっても変動します。発行体が資金繰りの悪化などによって、あらかじめ定められた条件で支払いができなくなった場合、またはその可能性が予想される場合に、債券価格は大きく下落することになります。

信用リスクと利回りの関係



一般に信用リスクが大きい場合、相対的に利回りは高く、信用リスクが小さい場合、相対的に利回りは低くなります。



- 信用リスクを測るうえで役に立つのが「格付け」です。
格付けとは、格付会社が発行体の信用リスクをランク付けしたもので、格付会社ごとにその表記は異なります。

〈格付けの記号：長期債務格付けの例〉

	信用度	利回り	ムーディーズ	S&P
投資適格格付	高い ↑	低い ↑	Aaa Aa A Baa	AAA AA A BBB
投機的格付	↓ 低い	↓ 高い	Ba B Caa Ca C	BB B CCC CC C D

たとえば、
S&Pグローバル・レーティングによる
格付けの定義によると、一番安全性
が高いとされるものをAAA(トリプル
エー)、BB(ダブルビー)以下のもの
は投機的格付けとして、投資に注意
が必要な債券とみなしているよ



投資信託の場合では、ファンドの投資方針に沿って、格付け別に投資対象を選ぶことが多く、
格付けが高ければ、相対的に信用度が高く、利回りは低くなります。
一方、格付けが低ければ、相対的に信用度は低く、利回りは高くなります。

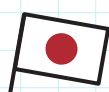
世界の格付会社

代表的な格付会社



- ✓ Moody's：ムーディーズ
- ✓ S&P：S&Pグローバル・レーティング
- ✓ Fitch：フィッチ・レーティングス

日本の格付会社



- ✓ R&I：格付投資情報センター
- ✓ JCR：日本格付研究所

※ムーディーズは、「Aa」から「Caa」までの格付けに、1、2、3 という数字付加記号を加えています。1 は、債務が文字格付けのカテゴリーで上位に位置することを示し、2 は中位、3 は下位にあることを示しています。

※S&Pにおいて「AA」から「CCC」までの格付けには、プラス記号またはマイナス記号が付されることがあり、それぞれ、各格付けカテゴリーの中での相対的な強さを表します(+がより強い)。



③ 為替変動リスク 為替の水準で受け取る金額が変動するリスク

■ 外貨建債券に投資を行う場合、為替の水準によって受け取る金額が変動するリスクがあります。

外国の通貨で利子や償還金が支払われる場合、受取時の為替水準によって、円での受取金額は変動します。

1米ドルを100円とし、
100万円(1万米ドル)を投資した場合



投資後、1米ドルが90円になった場合、同じ1万米ドルの円換算は90万円になり結果として10万円の損失となります。逆に、投資後1米ドルが110円になった場合、円換算すると110万円となり10万円の利益となります。

たとえば…

1米ドル=100円の時、
100万円投資したとすると…
投資した金額は、
100万円=1万米ドル



円高が進んだ場合

1米ドル=90円に

▲10万円

▶ 1万米ドル=90万円



円の価値上昇 外貨の価値下落

円安が進んだ場合

1米ドル=110円に

+10万円

▶ 1万米ドル=110万円



円の価値下落 外貨の価値上昇

このように、海外の資産に投資を行い最終的に円で受け取る場合は、為替変動が損益に影響します。

債券投資では発行体が債務不履行にならなければ、元本はすべて戻ってくるように考えがちですが、
外貨建債券に投資する際には為替変動の影響も考える必要があります。

※上記は元本の変動で、利子部分を考慮しておりません。また、税金等諸費用は考慮しておりません。

！ 投資信託のご購入に際し、お客さまにご理解いただきたいこと

お客さまが投資信託をご購入する際には、以下の2つの注意点を十分ご理解いただいた上で、当該投資信託の「投資信託説明書(交付目論見書)」を必ずご覧いただき、ご自身の判断で投資に関する最終決定をなさるようお願いいたします。

✓ 注意点① お客さまにご負担いただく費用について（消費税率 10%の場合）

	種類	料率	費用の内容	ご負担いただく費用金額のイメージ (金額は左記の料率の上限で計算しています)
直接的に ご負担 いただく費用	購入時手数料	0～3.3% (税込)	購入時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価です。	基準価額10,000円の時に100万口を購入される場合、 最大33,000円 をご負担いただきます。
	信託財産留保額	0～0.5%	換金に伴い必要となる費用等を賄うため、換金代金から控除され、信託財産に繰入れられます。	基準価額10,000円の時に100万口を換金される場合、 最大5,000円 をご負担いただきます。
信託財産で 間接的にご負担 いただく費用	運用管理費用 (信託報酬)	年率 0～1.98% (税込)	投資信託の運用・管理費用として、販売会社、委託会社、受託会社の三者が、信託財産の中から受け取る報酬です。	基準価額10,000円の時に100万口を保有される場合、 最大1日あたり約55円 をご負担いただきます。
	その他の費用・ 手数料		監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。(その他の費用・手数料については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません)	

※費用の種類や料率等は販売会社や個々の投資信託によって異なります。上記費用の料率は大和アセットマネジメントが運用する一般的な投資信託の料率を表示しております。ファンド・オブ・ファンズでは、ファンドが投資対象とする投資信託の運用管理費用等を別途ご負担いただきます。また投資信託によっては、運用実績に応じた報酬や換金手数料をご負担いただく場合があります。

※手数料等の合計額については保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。※投資信託により異なりますので、くわしくは販売会社にお問い合わせください。また、詳細につきましては「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

✓ 注意点② 投資信託のリスクについて

投資信託は値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失はすべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。投資信託が投資する有価証券等によりリスクの要因は異なりますので、お申込みにあたっては、投資信託の「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

〈委託会社〉

商 号 等 大和アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第352号
加入協会 一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料で掲載した図はイメージです。